資料３

本市における観光振興の意義

観光振興においては、地域資源を保存する立場と活用を促す立場(例：漁場の保全とテーラー乗車体験)をはじめ、民間施設同士の誘客など、多様な利害関係者が存在する。そのような中で、官民が連携し、多様な団体を巻き込んで「観光地域づくり」を推進するためには、「何のために観光振興を行うのか」「観光振興により何を目指すのか」という大きな方向性を共有する必要がある。

そこで、観光振興に取り組む背景や本市を取り巻く社会情勢等を踏まえ、以下のとおり「観光振興の意義」を定める。

①背景・社会情勢等

人口減少・地域経済への影響	荒尾市内や近隣市町の人口減少が予測される中、地域経済の縮小やにぎわいの低下が懸念される。加えて、コロナ禍により、交流人口の減少が地域経済に与える影響の大きさが再確認され、観光振興の重要性が改めて認識されている。
定住促進	第６次荒尾市総合計画では、定住人口の増加に向けた戦略として、関係人口(＝あらおファン)の創出・拡大を掲げており、本市に関心を持つ人や交流人口の増加を目指すこととしている。そのためにも、プロモーションに当たっては、市外からの観光客だけでなく、市民にとっても本市の魅力を再認識してもらうことが重要である。
地域文化の継承・発展	人口減少や高齢化を背景に、地域産業の担い手不足や地域文化の継承が課題となっており、荒尾市の暮らしを今日まで培ってきた文化・産業、歴史というストーリーを、次の世代に発展的に継承する必要がある。
ウィズコロナ・アフターコロナ	コロナ禍により移動や活動が制限される中、旅行先の選定に当たっては、安全性を確保しながら、癒し・やすらぎの獲得や日常からの解放、異日常の体験を求めるニーズが高まってきている。

②観光振興の意義

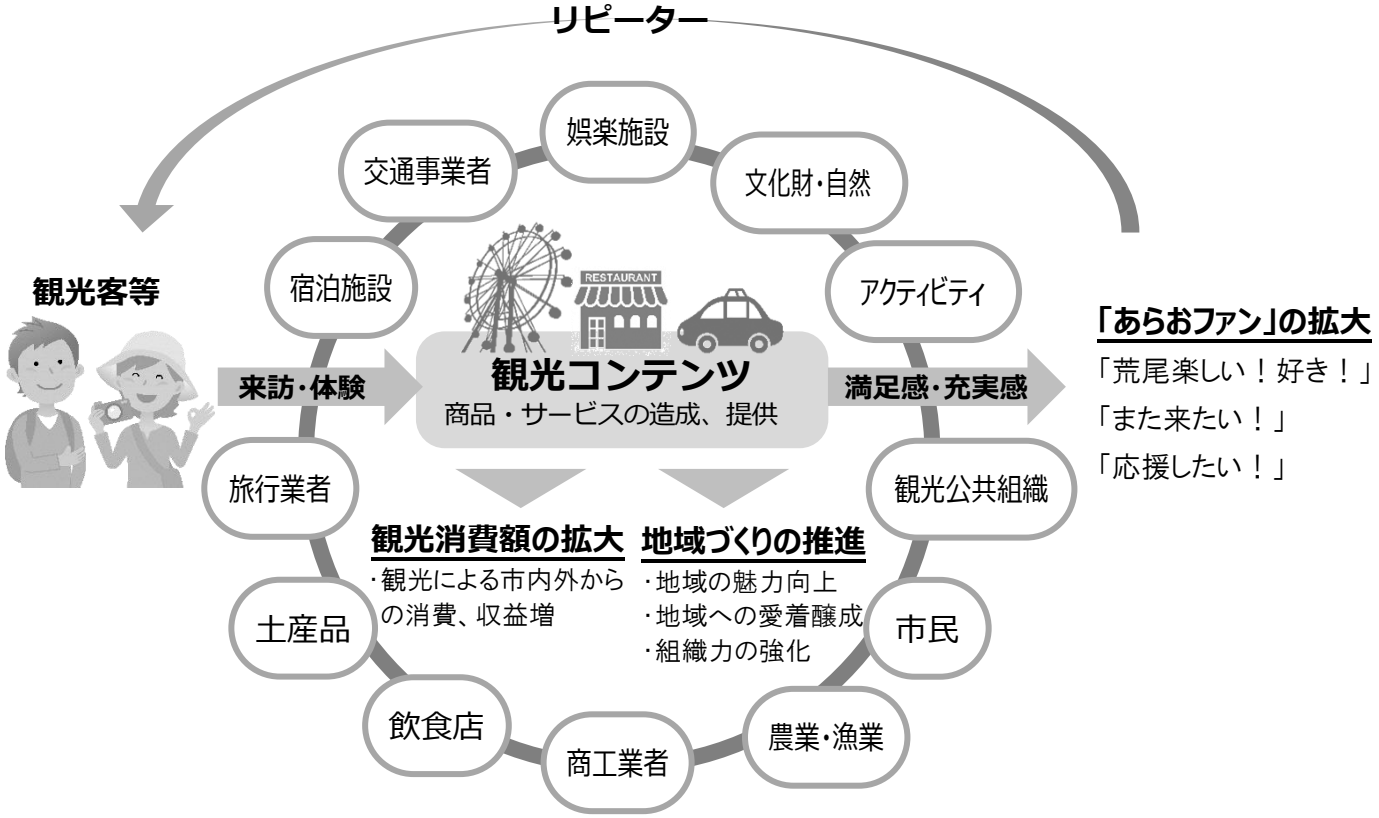
Ⅰ．観光消費額の拡大

- 宿泊施設・飲食店・交通機関などの市外からの利用促進による観光産業・観光関連産業の振興
- 観光振興との相乗効果による高付加価値化(エコツーリズム、アドベンチャーツーリズム、グリーンツーリズムなど)

Ⅱ．「あらおファン」の拡大

- 市内外を問わず、「荒尾市を好きな人」「荒尾市を応援する人」の拡大（リピーターの拡大やプロモーションの強化）

Ⅲ．地域づくりの推進

- 観光プログラム造成を通じた地域の魅力再発見と地域づくりの担い手育成
- 観光関連事業者・関係機関との共創・連携

【観光振興の推進イメージ】